



全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿

実施期間：令和5年7月15日(土)～16日(日)・22日(土)

目的・趣旨

「地域探究プログラム」は高校生の体験を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度である。宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを育成する。

事業概要

【参加者数】 23名

【実施内容】 地域貢献活動についての講義・フィールドワーク

仲間づくり活動

個人の実践活動計画作成

【外部指導者】（講師） 山崎 健太郎 氏（株式会社山崎建設代表取締役社長）

（講師） 小川 克昌 氏（有限会社アサップ代表取締役）

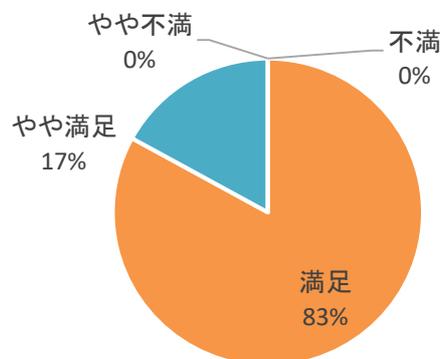
事業のポイント

- 妙高市で地域の魅力を向上するために活動されている講師の方々から、その手法について学んだ。
- 探究の手法を用いて自分が生活している地域の課題について考え、それを解決する対策を考えた。
- 集まった高校生同士がコミュニケーション能力を高めるために、仲間づくり活動やグループでの話し合い活動を取り入れた。
- グループや個人で考えた内容をまとめて発表することで、プレゼンテーション能力を高めるための機会を設定した。

成果

- 参加者の事業全体をとおした満足度は、「満足」「やや満足」を合わせて100%となった。
- 新潟県立直江津中等教育学校と新潟青陵高等学校に募集をかけ、募集予定人数を超える23名の参加となった。
- 地元妙高市で地域の魅力を高める活動をしている企業からご協力いただき、空き家再生や食用ほおずきのブランド化の取組について体験を通じて学ぶことができた。
- 高校生がそれぞれの視点で地域の課題に着目し、それを改善するための仮説を考えることができた。
- 初めて出会った高校生同士がコミュニケーションをとって、体験活動や話し合いに積極的に参加する姿が見られた。

参加者満足度



事業の様子



開会式・ガイダンス



空き家で使うベンチづくりのお手伝い



仲間づくり活動



ほおずきカレーを試食



グループで話し合い



仮説の発表

参加者の声

- たくさんの人達が地域をより良くするために努力している姿が心に残りました。
- それぞれの講話で今後生きることや学ぶことに役立つことを聞くことができました。また、グループワークでは、初対面の人との共同作業をすること、協力して1つの物を作り上げる経験をすることができました。
- 私は学校の先輩に進路の視野が広がるよと言われて今回参加しました。少し不安もありながら参加してみるとスタッフの方々もとても優しくグループ活動も個人での活動も自分たちのやりたいようにできたのがやりやすかったです。

課題

- 仮説を考えて実践活動の計画を立てることはできたが、実際に実践するところまでつながりにくいことが分かった。活動しやすい支援体制を検討する必要がある。